

深い学びを実現する体育科の授業づくり

～「楽しくわかる・できる」「認め高め合う」児童の育成を通して～

三次市立甲奴小学校

全児童生徒数	76名 (男子40名 女子36名)
全クラス数	8クラス(特別支援級2クラス)
TEL	(0847) 62-2100

1 課題と目的

本校は、体育科の研究仮説を「体育の授業が好きな児童100%を達成するために、【甲奴小版深い学び】のある授業づくりを確立し実施すれば、運動が苦手な児童も含めたすべての児童が体育科の授業を通して「楽しくわかる・できる」「認め高め合う」を実感し、体育科の授業を今よりもっと好きになるだろう。」として、授業改善を行っている。その上で、本校は「体育科の授業が好きな児童100%」を目標として、「楽しくわかる・できる」「認め高め合う」児童の育成を目指している。

【甲奴小版深い学び】とは、「自ら問い（ゴール）をもつ力」「最適解・納得解を考えぬく力」「対話を通して成長する力」という資質・能力を高める授業づくりの総称である。

2 主な取組の内容

- (1) ゴール・問いのある授業づくり
 - ・ファイナルタスクの設定☆
 - ・実態認識・課題認識
 - ・理論・実技研修の充実
- (2) 効果的な場やルール・教具等の工夫
 - ・場づくりの工夫☆
 - ・規則やルールの工夫
 - ・教具の工夫☆
 - ・動きのポイントの共有
- (3) 認め高め合う集団づくり
 - ・共通理解・対話の視点の明確化
 - ・ICTの効果的な活用☆
 - ・振り返りの活用

3 取組で工夫したところ（☆の具体例）

- ① ファイナルタスク（単元のゴール）
【6年生 ボール運動「ネット型 プレールボール」】
親 VS 子でプレールボールの大会を開くというファイ

ナルタスクのもと、男女・技能の差に関わらず全員が団結し、教え合ったり励まし合ったりしながら授業がすすんでいった。ゴールの親との勝負では、学習を通して得た知識・技能を活用して保護者相手に勝利することもできていた。

② 場づくり・教具の工夫

【1年生 表現リズム遊び「リズム遊び」】

保育園児を招待して一緒に遊べる「こうめ水ぞくかん」を開くために、まねっこ遊びや友達同士で教え合いながら、海の生き物の動きを楽しみながら表現した。その際、水辺やトンネル・海藻などの「海」の場づくり、お面などによる意欲喚起など、わくわく感と学びの質を高める環境面の工夫を行った。

③ ICTの効果的な活用

【5年生 陸上運動「走り高跳び」】

全員の記録の合計や伸びの合計で学校の高さや先生たちの身長を超えるために、チームごとに高めたい技能に合わせて教具や場のセッティングしながら記録の向上に取り組んだ。ITCを活用しながらポイントを絞って教え合ったり、過去の跳び方との変容を確認し合ったりし、最終的には全員で学校を跳び越えることができた。

4 成果と今後の課題

【成果】

今年度12月に実施した児童アンケートにおける「体育の授業は好きですか？」の項目の肯定的回答率が100%となり、授業改善の成果が出ている。

【課題】

運動有能感（自分是可以）の伸びがゆるやかであり、ひきつづき、授業において「わかる・できる」を実感できる工夫や手立てを仕組んでいく。

① ファイナルタスク（6年）



親に勝つために必要な知識・技能を高めるといった問いをもつことができた。

② 場づくり・教具（1年）



場や教具の工夫により、意欲の喚起とともに、より新たな考えを生み出すきっかけとなった。

③ ICTの活用（5年）



ICTを活用することで、チームでの教え合いの視点や一人一人の課題の明確化に役立てることができた。